

新渡戸稲造父祖ゆかりの地

# 「花巻新渡戸記念館」庭池に錦鯉30尾を放流

エバークリーン株式会社（本社／東京・丸の内）では、地域社会貢献の一環として、毎年、数カ所の公共施設に錦鯉の寄贈を行なっている。同社は、養魚部として栃木県小山市に小山養魚場（全日本錦鯉振興会会員）を併設し、錦鯉の生産・販売等の重要拠点として、毎年優秀な錦鯉が量産、販売されている。

エバークリーン（養魚部）では、日本の伝統文化として世界中で愛され、飼育されている色鮮やかな錦鯉の継承・発信を目的として、国内の多くの人々に身近で錦鯉を觀賞してもらおうと、2011年から全国の神社仏閣、学校等を含む公共施設の庭池に錦鯉の奉納、寄贈を続けている。

今年最初の錦鯉寄贈、放流は6月13日（木）、旧5千円札でおなじみの新渡戸稲造父祖ゆかりの地である、岩手県花巻市の「花巻新渡戸記念館」内、「志向の池」で行なわれた。

当日は初夏の日差しがさわやかな絶好の錦鯉放流日となり、早朝6時前に日野裕介養魚部部長以下5名のスタッフが、寄贈鯉を積んだトラックで小山養魚場を出発。一路、東北

自動車道を北上し、途中、岩手県北上市にある同社の東北支店で橋本成氏支店長と合流。総勢6名で花巻市の「花巻新渡戸記念館」へと向かった。

一行は午後2時過ぎに記念館に着。館長室に獄間沢茂館長を表敬訪問し、昨年引き続き2回目となる今回の寄贈の趣旨説明を行った。その後、全員が池のある広い庭園に移り、館長ら関係スタッフが見守るなか、トラックから丸桶に移された錦鯉を放流池まで運び、1尾ずつ丁寧に池に放された。

今回放流された鯉は、いずれも40～50cmの2、3才の色鮮やかな紅白、大正三色の2種類30尾。「こども発達相談センター」（花巻市）を通じて放流に特別参加した4人の子供たち



足を止めて錦鯉に見入る訪観者の親子

も、直接鯉に触れて錦鯉の美しさに感激の様子であった。  
広い池の中を華麗に舞う寄贈鯉の姿を全員が見届けた後、獄間沢館長より、日野養魚場長並びに橋本東北支店長らスタッフ全員にお礼の言葉が述べられ、今回の放流は終了した。  
この放流の様子は、翌日の地元紙でも写真付きで報道され、今後、来館者はもう一つの楽しみとして、美しい錦鯉に癒されることであろう。  
引き続き、エバークリーン（養魚部）では6月15日（土）、舞台を東京に移し、文京区白山にある白山神社で開催中の「あじさい祭り」に協賛、錦



袋詰めされた寄贈鯉をトラックから池に運ぶ養魚部のスタッフたち



獄間沢館長ほか担当者に趣旨説明を行う日野部部長（中央）と橋本支店長（左）



関係者が見守るなか1尾ずつ手放流



錦鯉の感触を確かめる特別参加の子供たち

鯉の稚魚を「鯉すくい」に提供した。土曜日ということもあり、会場は大勢の見物客で賑わいをみせた。そのため「鯉すくい」も大変な繁盛ぶり、事前に準備した鯉すくいの「ポ



白山神社（東京都文京区）境内での「鯉すくい」

イ」700枚も瞬く間に品切れとなり、関係者も驚きの表情を隠せないようだった。  
主催者の白山神社奉賛青年会の小泉潤一郎会長からお礼の言葉とともに、今後も継続して奉賛してほしいとの要請に、日野裕介養魚部部長は社の方針である以上、協力は惜しまないと語った。近い将来、小山養魚場で作出された華麗な錦鯉が、日本全国の公共施設等で觀賞できることだろう。



「花巻新渡戸記念館」回遊式庭園全景



錦鯉放流に特別参加した子供たちを含む皆さん（前左から2人目／獄間沢館長）

庭池に彩りを添える放流後の錦鯉の群泳